

ベースライン（干潟）

根拠1.
プロジェクト開始（1997（平成9）年）前のベースライン根拠として、青山，2000による三河湾における海岸線の変遷と漁場環境に関する論文において、1951年以降三河湾の各所で相当の面積の埋め立てが行われたと示され、埋め立てによる干潟・浅場の消失が示唆されている。そのような中、竹島においては中山水道航路整備事業から発生した浚渫土を用いた覆砂の環境改善事業が行われており、干潟の維持・改善が図られてきた。

根拠2.
竹島は冬季から春季にかけて西風が強く吹き付け、干潟の砂泥が岸へ大量に吹き寄せる。航空写真において、2月時（右上図）は砂が大量に吹き寄せているため、11月時（右下図）で確認できる岸の階段護岸が確認できない。その為、毎年吹き寄せた砂泥を干潟に覆砂すると同時に干出範囲全域で耕耘を行い、底質の維持・改善を行っている（下図）。

根拠1、2より活動により蒲郡竹島地区では干潟が維持されていると推察される。



2024年6月5日 耕耘範囲（青枠内）及び耕耘状況



2016年2月7日 竹島付近 航空写真（GoogleEarthより）



2023年11月28日 竹島付近 航空写真（GoogleEarthより）



左航空写真上の③を岸側より南方向を撮影



右航空写真上の④を岸側より南方向を撮影

2024年6月5日 岸に吹き寄せられた砂泥の状況